

## アメリカが、アルカーイダと ISIS テロ集団を創った

【訳者注】これはニュースではない。この事実は、ネット世界ではかなり前から共有されており、このサイトの編集者ミシェル・チョストフスキー教授の調査研究がきっかけではないかと思われる。9・11 の事実を知らなければ話ができないように、この事実も知らなければ話ができないので、こうして念を押すように、何度も同じ記事が出る。テレビ・新聞のニュースしか見ないという人は、この話がよく呑み込めないはずである。理解できないように報道されているからである。この論文を読めば、これほど単純明快な話はないのに、メディアでは、購読料・視聴料を払っているのに教えないという（あるいは意図的に間違いを教えるという <http://www.dcsociety.org/2012/info2012/160429.pdf>）理不尽なことが行われている。

Garikai Chengu

Global Research, August 27, 2016



*Global Research* により 2014 年 9 月に初めて発表された鋭い論文である。ISIS がやったとされているテロ攻撃や大量射殺について、訊ねなければならない質問は——アルカーイダや ISIS の国家スポンサーは誰なのかということだ。

(GR 編集者 Michel Chossudovsky)

アルカーイダと同様に、イスラム国 (ISIS) もメイド・イン・USA であり、それは、石油の豊かな中東を分割統治し、この地域におけるイランの増大する影響力を抑えるために仕組まれた手段である。

アメリカが、テロリスト集団を背後から支援してきた、長く熱い歴史をもっているという事実に驚くのは、ニュースだけを見て歴史を無視する人たちだけである。

CIA は最初、冷戦時代に、過激派イスラムと同盟関係を結んだ。その当時アメリカは世界をかなり単純に見ていた——一方において、ソ連と、アメリカがソ連の道具とみていた第三世界ナショナリズムがあり、他方には、西側諸国と、戦闘的・政治的イスラム圏があり、この

後者をアメリカは、ソ連との戦いにおいて同盟者と考えていた。

ロナルド・レーガン政権下の国家安全保障局の局長だった William Odom 将軍が、最近こう言っている——「どのように見ても、確かにアメリカは長くテロリズムを利用してきた。1978 - 79 年間には、上院は国際的テロを防ぐ法案を通そうと試みた。彼らが異なったバージョンを出すたびに、法律家たちは、アメリカが違反することになると言った。」

1970 年代に、CIA はエジプトの「ムスリム同胞団」を、ソ連の拡大を食い止めるため、またアラブ世界にマルクス主義思想が広がるのを防ぐために、防壁として利用した。アメリカはまた、インドネシアのスカルノに対抗して、Sarekat イスラムを公然と支持し、パキスタンの Zulfikar Ali Bhutto に敵対して、Lamaat-e-Islam テロ集団を支援した。最後に、これが最も重要だが、アルカーイダがある。

忘れないように言っておくと、CIA は 1980 年代に、オサマ・ビン・ラーディンを生み出し、彼の組織を大事に育てた。元英外相ロビン・クックは、アルカーイダは間違いなく、西側諸国の情報局の創り出したものだと下院で話した。クック氏は、「アルカーイダ」とは文字通りには、アラビア語で「データベース」を意味する略語だが、もともとそれは、何千ものイスラム過激派のコンピューター・データベースのことで、彼らは、アフガニスタンのロシア軍を敗退させるために、CIA によって訓練され、サウジから資金援助されたものだと説明した。

アメリカのアルカーイダとの関係は、常に愛憎両面をもつものだった。一定の地域のある特定のアルカーイダ・テロ集団が、アメリカの利益のために役立つか否かによって、米務省は、そのテロ組織に資金を与えたり、攻撃の対象にしたりする。アメリカの対外政策立案者は、ムスリム過激主義を敵だと主張しながら、承知の上で、それを対外政策の武器として扇動している。

イスラム国は、アルカーイダと全く同じように、確実にバックファイアしてくる最新の武器である。ISIS が最近、国際的に注目を浴びるようになったのは、彼らの殺し屋がアメリカのジャーナリストの首を切るようになってからである。現在このテロリスト集団は、連合王国ほどの大きさの領域を支配している。

イスラム国がなぜ、こんなに急速に成長し、勢力をもつにいたったかを理解するためには、アメリカを背後にもつこの組織のルーツを調べなければならない。2003 年のアメリカのイラク侵略と占領は、過激なスンニ派集団が、ISIS のように、根付く先行条件をつくり出した。アメリカは愚かにも、サダム・フセインの世俗（非宗教）国家機構を破壊し、圧倒的に

シーア派による政権に置き換えた。アメリカの占領は、スンニ派地域に幅広い失業を引き起こしたが、それは社会主義を拒否し、自由市場という魔法の手が雇用を生み出すのではないかという甘い希望をもって、工場を閉鎖したことによるものだった。新しい、アメリカに援助されたシーア派政権のもとで、スンニ派の労働者階級は何十万という人々が職を失った。政権交代後も財産を持つことを許された、南アフリカの白人アフリカ人とは違って、上流のスンニ派は組織的に資産を没収され、政治的力を失った。宗教的な統合や調和を促進するのではなく、イラクにおけるアメリカの政策は、派閥の分裂をより悪化させ、スンニ派が不満をもつような悪の温床を作り、そこからイラクのアルカーイダが生じてきた。

“イラクとシリアのイスラム国” (ISIS) は、最初は“イラクのアルカーイダ”という別の名前だった。2010年以後、この集団は名前を変えて、努力の方向をシリアに転換した。

シリアでは、本質的に3つの戦争が戦われている——ひとつは政府とごくわずかの反政府軍の戦争、もう一つはイランとサウジアラビアの戦争、更には、アメリカとロシアの戦争である。アメリカの対外政策立案者に、シリアのイスラム主義反乱軍に武装させるというリスクを冒す決意をさせたのは、この三つ目のネオ・冷戦の闘争である。なぜなら、シリアの大統領バシール・アル・アサドは、カギ的なロシアの同盟者だからである。ちょっと面倒なことに、これらシリアの反乱軍の多くは、今では、ISISの殺し屋であることがわかっており、彼らは公然と、アメリカ製のM16 襲撃ライフルを振り回している。

アメリカの中東政策は、石油とイスラエルをめぐる動いている。イラク侵略はある程度、ワシントンのオイルへの渴望を満足させたが、今行われているシリア空爆と、イランへの経済制裁は、全面的にイスラエルと関係がある。その目標は、イスラエルに隣接する敵たち、レバノンのヒズボラとパレスチナのハマスから、死命を制する、シリアとイランの援助を奪うことである。

ISIS は、シリア政府を覆すためにアメリカに利用されているテロの道具であるだけではない。それはまた、イランに圧力をかけるためにも利用されている。

イランが他国を侵略した最後の事件は1738年だった。アメリカは1776年の独立以来、53件以上の軍事侵略と遠征にかかわっている。西側メディアの戦争の雄叫びに騙されて、人々がどう信じようと、イランは明らかに、地域の安全に取って、ワシントンのような脅威ではない。2012年に発表され、アメリカの16の情報局すべてによって保証された、ある情報報告書は、イランは2003年に、核兵器開発計画を打ち切ったことを確認している。実のところは、現実であろうと空想であろうと、イランのどんな核の野心も、アメリカのイランに対する敵意から生じたもので、その反対ではない。

アメリカは ISIS を 3つの使い方をしている——中東の敵を攻撃するため、海外での米軍の介入の口実にするため、そして国内では、ねつ造された国内の脅威を煽るため、これは、人権侵害の国内監視の、前例のない拡大を正当化するのに用いられる。

政府の秘密と監視をともに急速に増大させることによって、オバマ氏の政府は、その市民監視の能力を増強させる一方で、市民の政府監視の能力を弱めている。テロリズムは、大衆蜂起に備えて、集団監視を正当化するための口実である。

いわゆる“テロへの戦い”とは、実は何であるかを、しっかり見届けなければならない。それは、危険なほどに巨大化された米軍を維持するための口実である。アメリカの対外政策組織の、2つの最も強力なグループは、アメリカの中東政策を指令するイスラエル・ロビー、それに、このグループの行動から利益を得る軍産複合企業である。ジョージ・W・ブッシュが 2001 年 10 月に“テロへの戦い”を宣言して以来、それはアメリカの納税者に、ほぼ 6 兆 6,000 億ドルの税と、何千人という息子や娘の命を要求した。しかし戦争はまた、ワシントンの軍のエリートに何十億ドルという利益をもたらした。

実は、70 以上のアメリカの会社と個人が、過去 3 年間で、戦後のイラクとアフガニスタンの仕事の請け負いによって 270 億ドルを稼いだ、と Center for Public Integrity（非営利調査報告団体）の最近の研究は伝えている。この研究によると、これらの個人企業の 75% 近くの被雇用者や重役が、共和党や民主党政権の執行部勤務、連邦議会議員、または軍の最高レベル勤務か、それに強い繋がりをもつ人々だった。

1997 年に、ある米防衛省の報告がこう言っている——「このデータは、アメリカの外国への介入と、アメリカに対するテロ攻撃の増加の間に、強い相関関係があることを示している。」本当のことを言えば、アメリカが“テロへの戦い”に勝利できる唯一の方法は、アメリカがテロリストに、アメリカ攻撃の動機や手段を与えることをやめることである。テロは徴候であり、中東の米帝国主義がガンである。単純に言えば、“テロへの戦い”がテロである。ただそれは、ジェット機やミサイルによって、はるかにより大きな規模で行われるというだけである。

（ガリカイ・チェングは、ハーバード大学の研究員、[連絡先は garikai.chengu@gmail.com](mailto:garikai.chengu@gmail.com)）